

Take Free

長泉町未来人「みらいびと」
オフィシャルマガジン

#Nagaism

長泉町未来人『みらいびと』発信！ 地元がもっと好きになる



Pick up

「長泉わくわく祭り」再開に向けて

私たちが生まれる前、1997年に現在の形で始まった「長泉わくわく祭り」。企業やスポーツ団体、区民で構成される「踊り連」などが主となり、素晴らしい盛り上がりを見せ、醍醐味であるパレードには夜の部だけでも2000人以上が参加する。今後はパレードに参加する若者を増やすことが目標という。現在は、伝統を大切に曲をパレードの曲に採用しているが、若者の参加を増やすために、TikTokやYouTubeで流行ったダンスの曲を組み込んでもいいかもしれない。2020年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止が続いているが、再開されたあかつきには、長泉により一層フレッシュな活気を生みだし、さらに「ワクワクする」祭りへと進化していくことを願う。



長泉わくわく祭り

開催日：毎年8月第1土曜日(予備日:翌日曜日)
開催場所：JR下土狩駅周辺
(大いちょう通り、長泉中央通りほか)
実施内容：ステージイベント、ストリートイベント、飲食出店、踊りパレード・コンテストの実施、くじ付きうちわ販売、写真コンテストの開催など
主催：長泉町、長泉わくわく祭り実行委員会
電話：055-989-5516
長泉わくわく祭り実行委員会事務局(役場産業振興課内)

HPはこちら /

Instagramはこちら /



桃沢野外活動センター

住所：駿東郡長泉町元長窪895-108
予約受付時間：【窓口】8:30～17:00【電話】8:30～20:00
電話：055-987-5100
焚き火フォレスト…1戸4時間 2,000円(現金のみ)
サウナ利用…1日利用券 1,000円(時間内何度でも利用可)

HPはこちら /



町に溶けこむ『わくわく日和』

私たち長泉町未来人(町内在住大学生)が地元の魅力を、同世代に伝えるプロジェクト。

まず思い浮かんだのは、長泉町で生まれ育った人であれば、一度は宿泊したことがあるであろう「桃沢野外活動センター(旧桃沢少年自然の家)」や小中学生の頃に踊った「長泉わくわく祭り」のダンスだった。今回はそんな馴染み深く、多くの人が楽しめる、わくわくするスポットやイベントを皆さんと同じ世代の私たちがお届け。大人になった皆さんに伝えたい魅力とは？

大人も遊びつくせる
アウトドア複合施設「桃沢野外活動センター」
2020年7月にリニューアルオープンし、キャンプやバーベキューに加え、さらに多種のアウトドア体験ができる充実した施設に生まれ変わった「桃沢野外活動センター」。今回は、「一日あれば楽しめるアウトドア」をテーマに、アウトドア初心者私たちが、新しく増設された施設の「焚き火」と「サウナ」を実際に体験してみた。焚き火施設「焚き火フォレスト」には炉が設備されていて、炉を囲むように丸太の椅子がある。炉の中で火が燃えている様子はとても印象的だ。焚き火を使って、食材をアルミホイルで包み焼きにしたり、ダッチオーブンを使ったりすれば、初心者でもバーベキューと一味違う料理を作って食べることが出来る。他にも工夫次第でさまざまなメニューを作れそう。焚き火の楽しみ方は色々あり、使う人の個性が出る。ぜひ一度、自然の中で焚き火を感じてもらいたい。

大自然の中、サウナ初体験!
まず必要なのは、水着、サンダル、タオル。桃沢の「フォレストサウナ」でのサウナ体験が、人生初サウナだ。扉の向こうは別世界。全身を熱波に襲われながら、一番奥、最上段に陣取る。そして熱い。温度計は100℃を示すも、「思ったよりいける」という感覚だ。熱い熱いと思っている間に体が慣れはじめた。体の内から熱が広がっていく感覚。とても心地よい。これがサウナの魅力その1だ。また、キャンプ場に面した桃沢川で水浴びすることもできる。10分を目処にサウナを後にし、シャワーで汗を流して川へ向かう。そして着水。11月の桃沢川は鬼の冷たさだ。全身を凍てつく刃が襲うが如く、ズキズキと水流が突き刺さる。これはリフレクシユというより我慢。我慢した先の「ととのう」を味わうためののだ。これぞ魅力その2。限界に達して川を飛び出し、震える体でベンチに向かう。その最中で体の内から熱が広がっていく感覚。デジャヴ。ベンチで休憩すると、先ほどの寒さは消え、どんどん温かくなっていく。体が少し軽くなった感覚、まるでフワフワと浮いているかのよう。この一連を繰り返すことで「ととのう」に到達

10分が目安! まだまだ余裕!!

汗を流してから入ろう!

服を着てから外気浴に!

1 2 3



発見!
ふらっと立ち寄りグルメ

素敵な出会い

立ち寄り一休み

気軽にふらっと

私たちが暮らす長泉町には、ぜひ食べてほしい素敵な「立ち寄りグルメ」がたくさん。探索してみると素敵な出会いが待っているはず。今回は、皆さんが気軽にふらっと立ち寄れる、美味しいグルメのお店を取材させてもらった!

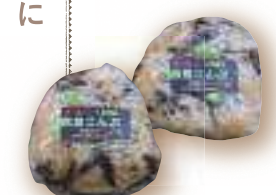
**探索の先に素敵な出会い！
レトロな古民家『パン屋さん』**

長泉町下土狩にたずむ古民家パン屋さん・Boulangerie Ça dépend。名前の意味は『時と場合による』。オーナーの若崎さゆりさんが、パリのパン屋で働いていた際にそのオーナーの口癖からとったそう。小麦粉は小麦をフランスから輸入、日本で粉にしたものを使用しており、気温や湿度の違いで味が変化しないように細心の注意を払っているとか。お店のいちおしパンはハード系のバケット。このパンは当時のパリの味を再現しており、水分を飛ばしながらこだわりのオーブンで焼き上げるため、固い食感に加え本場の味が楽しめる。また、土曜日限定販売のキッシュ（320円）も人気。取材当日には、「キッシュねぎ・とり」と「サーモンとほうれん草のキッシュ」を購入。サクサクのパイ生地の中にはたくさん具が盛りだくさん。小腹がすいたときの軽食にオススメです。季節や曜日によってパンのメニューが変わり、幅広く楽しむことができる。まさに『時と場合による』パンをぜひご賞味あれ！

「米屋のいっぷく堂」は、お米はもちろんのこと、おにぎり、スイーツなど幅広いメニューが楽しめる。お店の前に公園ができる際、「訪れる人から、おいしいお米を使った手作りおにぎりの販売を始めた。『全ての人に安心安全なおにぎりをお届けすること!』をモットーにしている。30種ほどある中で、お店のイチオシは、こだわりの米と塩を使った枝豆昆布のおにぎり。塩の量は、夏は汗をかくので多めに、冬は少なめにするなど季節によって工夫し、一つずつ手で握っている。また、店主奥様のアイデアが詰まったスイーツ、夏のかき氷やお米のムースは若者や子どもにも大人気。ぜひ一服、お散歩がてらにふらり立ち寄りてみて!

**おにぎり片手に
ちよっと一休み!**

『甘味処 米屋のいっぷく堂』



おすすめメニュー

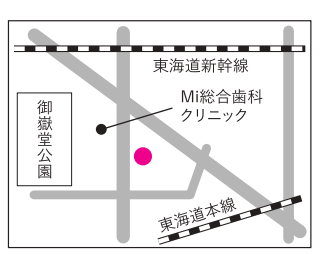
カンパーニュ・オ・ショコラ (430円)
チョコを使用したスイーツパンで、チョコ好きにはたまらない! しっかりした硬めの生地の中には2種類のチョコがたっぷり。温めるとチョコが溶けてさらにおいしい。



クリームパンやアンパンなど
美味しい食事パンも
いっぱいあるよ!

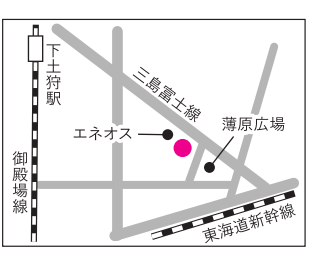
おすすめメニュー

からあげ弁当 (530円)
米屋さんならではの、おいしいこだわりの白米の上に、からあげを始め手作りお惣菜が盛りだくさん。この他、ちよっといっぷく弁当 (450円) など、ご飯のおいしさを楽しめるお弁当が並んでいる。



Boulangerie Ça dépend
(ブランジェリー サ デポン)

住所：駿東郡長泉町下土狩201-2
電話：050-1221-2257
駐車場：1台
営業時間：10:00~17:00
(商品がなくなり次第終了)
定休日：月、日曜、第3火曜



米屋のいっぷく堂

住所：駿東郡長泉町下土狩437-1
電話：055-986-3475
駐車場：7台
営業時間：8:30~17:30
定休日：日曜





都心からの
ちょうどよい距離感

自分たちの「やりたい」が 叶う場所

宮迫大樹さん・菜由さん ご夫婦

結婚を機に長泉町に移住し、夢に向かって新しい生活を実践しているお二人。自分たちだけでなく、他の人にも良い影響を与えるモノをつくり、育てていきたいという思いから、長泉町でシェアハウス「ジュニアプラン」を運営。

Q 移住するにあたって長泉町を選んだ理由や、いいと思うところを教えてください。

菜由さん 親がいる静岡市に近い静岡県内で、新幹線の駅があるところを探していて、この土地や人にとってもいい印象を受けたので、長泉町に決めました。

大樹さん 僕はアクセスの良さはとても大事だと思っています。大学生や社会人になると、実際に会える人以外との関係が切れがちなので。長泉町は都内からも、静岡の他の地域からもアクセスしやすく、距離感がちょうどいいと思います。

Q 長泉町に移り住んでみて、こうなったらいいなと思うことはありますか？

菜由さん もっと地域の人や他の移住者と交流できる場が欲しいですね。実際に話を聞かないとその土地のことはよく分かりませんし、人間関係を築くのは難しいですから。最近、長泉町にもコワーキングスペースができたので、このような場が広がればいいなと思います。

Q これからも長泉町に住み続けたいですか？

大樹さん 転職しない限り、引越すことはないと思います。僕がこの地域で活動していいなと思ったのは、長泉町をはじめ静岡の人たちは「ここでこんなことをやりたい！」という思いにすぐく応えてくれるってことです。そうした人のつながりから生まれた事業が伊豆半島にはたくさんあります。学生のみなさんが、

町民インタビュー

「長泉町って 住みやすい」



ずっと住んでいると意外と分からない、まちの魅力や住みやすさ。それを若い同世代に伝えるには、「実際に住んでいる人の声を聞くのが一番」と考えた私たちは、長泉町に移住してきたご夫婦、長泉町で子育てをしているママさん、それぞれに話を伺った。

Q 長泉町の良いところは、どんなところですか？

私が子どもの頃と比べて、公園や子育て施設などが充実し、町全体が活気に満ちていて、明るい雰囲気になったように感じます。また、実際に自分が子どもを育てる親の立場になって、今まで気づかなかった長泉町の「住みやすさ」を、生活の多くの面で実感しています。



バルながいずみ
子育て支援センターと児童館の機能を併せ持つ、県東部最大規模の子育て支援拠点施設。
住所：駿東郡長泉町中土狩539 プレスボ長泉A棟2階
電話：055-988-1086
開所時間：9:00~16:00 ※11:30~13:00は入所できません。
休所日：火曜日(祝日を除く)、年末年始(12/28~1/4)



Q どのような子育て支援制度を利用していますか？

家から近く、おもちゃもたくさん備えられ、遊び場として設備が充実しているのでもよく利用します。利用者さんが多く、子ども同士、親同士の交流も盛んで、単に子どもを遊ばせる場としてだけではなく、子育てに関する情報共有の場としても活用しています。

高澤圭香さん
生まれも育ちも長泉町。現在、一児の母として初めての子育てに奮闘中。「子どもと親同士が仲間のように集える場所」をコンセプトに設置された長泉町の子育て支援施設「バルながいずみ」の利用者。

インタビューを終えて

赤ちゃんから、私たち大学生の通学支援制度に至るまで、幅広い年齢層を対象に展開されている長泉町の子育て支援制度。今まで当たり前のように享受していたものが、他の市町から羨望の眼差しを向けられる、恵まれたものであると痛感した。これは漠然と感じていた長泉町の「住みやすさ」の理由の一つに間違いはない。

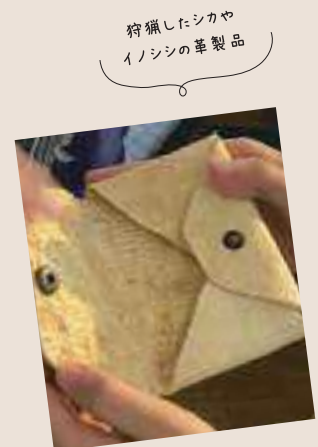
親になってわかる 住みやすさ 子育てにやさしい町



社会経験やインターンのために行ってみるのもいいと思います。

Q 今後の展望を教えてください。

大樹さん 今後も生活の一部としてシェアハウスを運営していきたいながら、妻は昨年始めた狩猟を続けるという夢が、僕にはさらに地域と人に寄り添い誰もが自分らしくある社会を実現するという夢があります。ここを自分たちの基盤として、夢に挑戦していきたいと思っています。



インタビューを終えて

宮迫ご夫婦の「長泉町から若者が出ていかなないようにするだけでなく、帰ってこられるようにするのにも必要」という話は印象的だった。これからも長泉町の未来人として、自分と長泉の未来について真剣に考えていきたい。

#Nagaism

編集後記

#Nagaismは、長泉+「~ism」の造語です。主義、特性、流儀などを意味する「イズム」と組み合わせ、#をつけることで、若者に伝えたい「長泉町らしさ」を表現しました。本誌が地元長泉町をもっと好きになる機会になったら嬉しいです。取材にご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



元々活気のある長泉町ですが、更に現在長泉町に在住している若者の方々に少しでも長泉町の魅力が伝わっていたら幸いです。また、この活動を通し、長泉町の新たな一面に気付かされ、貴重な体験でした。(SKC)

自分たちの身近にある飲食店を取材して、こんなお店もあるんだと新たに気づけたとても良い機会でした。このマガジンを見た長泉の若い人達に、長泉に素敵なお店があると知ってもらえたら嬉しいです。(堀越)

今回のプロジェクトによって、長泉町に暮らしていながら自分自身が知らなかった町の良さや、取材をした際に長泉町が良いと思っている人が大勢いることを知り、長泉町の良さを再認識しました。(O.S)

メイキングスクールでは、取材内容の原稿を書かせていただきました。お店の方のお店への想いや愛を形にすることは難しくやり甲斐がありました。貴重な体験をさせていただきありがとうございます。(久乃)

一緒に何かを作り上げるやりがいい喜びは、何にも代えがたい経験となると感じました。二十の節目、これからも様々なことに挑戦していきたいと思います。大変貴重な機会を頂き、ありがとうございました。(N. Tsuchiya)

記事制作で実際に移住者の方の話を書くことで、長泉町のいい点や改善点を改めて見つけることができました。これからも長泉町の未来人として、自分と長泉の未来について真剣に考えていきたいと思いました。(Y.Y)

長泉町は自然を身近に感じることができ、ご年配の方から子育て世代まで活気ある人々が大勢暮らしていることがわかりました。今回の記事が私たちの様な年代をもっと元気にするきっかけになったら嬉しいです。(こた)

今回のプロジェクトで私たちの班は「食」について調べました。長泉町には私が訪れたことのない美味しいお店がたくさんあり、長泉町の魅力を改めて知る良い機会になりました。みなさんもぜひ訪れてみてください。(北尾)

オフィシャルマガジンの制作に携わり、長泉町に住んでいるがこれまで知らなかった飲食店の発見や、取材先のお店が始めようと思った経緯や店主の方や従業員1人1人の思いなどを知る貴重な経験ができました。(O.Y)

これまで未来人の活動に参加してきて、「長泉町」について考える機会がありましたが、今回の取材を通して、町の魅力を肌で感じる事ができました。皆さんも知った気にならず、ぜひ足を運んでみてください。(柏木)

今回の取材を通じて、自分も長泉の未来を担う人間の1人として、長泉町がより住みやすく、未来ある自治体であり続ける為にはどうするべきなのか、これからも考え続けていきたいと思いました。(石黒)

マガジン発行までの様子はこちらから

長泉町未来人「みらいびと」オフィシャルマガジン
#Nagaism (ナガイズム)

発行/長泉町行政課
編集・取材・撮影/長泉町未来人「みらいびと」
写真提供/桃沢野外活動センター
2023年1月発行

長泉町からのお知らせ

未来人である町内大学生が自分たちの興味のあるヒトやモノ、コトを取材・編集し、この冊子ができました。

